

教育振興基本計画策定懇話会（第2回） グループ別協議

Aグループ

テーマI「これからの学校教育のあり方」

ありたい姿	多様な価値観にふれさせる	主体性が発揮できる	地域の中でみていく	永続的につなげられるコミュニティスクール			
	コミュニティスクールの充実	多様な居場所づくり	多様な環境づくり	学力の向上	未来にあったコミュニティのあり方に対応できる		
取り組み	地域で場所づくり	色々な人が学校へ伝えていくシステムづくり	文化伝承するタイミング方法づくり	意見を聞いて選んでいく	AIに任せられるところは任せる	保護者・地域とつながれる仕組み	わかりやすい言葉で情報発信
	多様性に対応する	スポーツ少年団・部活などのつながりを活用	まわりの環境をかえる	リーダーとして傾聴してコミュニケーションを求めていく	永続的しくみづくり	保護者の垣根を低くする	
	多様なものを認めていく	企業や大人が教えられる仕掛けづくり				コミュニケーションづくり	
	楽しさを求める場所		個を認めていく、良さを引き出す	学力の土台を話しあう	教職員も地域へ出ていく	みんなで力を合わせて	
課題	発達の課題	あたり前の常識	継続性伝承	学校教育の狭さ	少子化		集団のよさ⇔少人数のよさ
	多様性に対応していかないといけない	学力のものさし	コミュニケーション	保護者の思い、理解	地域のつながり、希薄さ	学校が国が何とかしていく（今まで）	

まとめ（論点）

○多様性への対応

- ・多様性が重視されている時代において、児童・生徒・保護者・教職員も多様性に対応していく必要がある。そのため、多様な価値観に触れさせるためにもコミュニティスクールを充実させていく必要がある。
- ・コミュニティスクールにおいても地域の中で多様な居場所づくりを行うとともに、企業などと協働していろいろな方が関わり伝えていくシステム作りも必要である。

○永続的な仕組みづくり

- ・10年後20年後を見据えて、現在立ち上げている形を未来にあった形に良いところは残しつつ、変化させるところは変えていき、子供中心に対応をできる仕組みづくりを作っていく必要がある。

○わかりやすい言葉での情報発信

- ・だれでもわかりやすい言葉で情報発信を行うことで協力体制が変わってくる。

Bグループ

テーマ1「これからの学校教育のあり方」

ありたい姿	学力向上	家庭学習	環境整備			
取り組み	学校教育の充実	いのちの大切さ講演会	異なる他者とのコミュニケーション	10年後20年後を見据えて	規模適正→学校統合	将来
		学校・家庭以外の居場所	親でもない学校でもない地域の大人の方の力	地域学校協働活動	学校の魅力づくり	
	学校内の多くのつながり	学校でのいじめ対策の充実	地域の見守り、声かけ	地域の協力	他校との交流を盛んに	仲間づくり、合同行事、合同部活動 近未来現在
	企業や大人が教えられる仕掛けづくり			コミュニティスクール	↑	
課題	不登校	いじめ	学力の低下	学校のあり方を今から考える		
				児童数減、教員数減	学校規模	他の地域への進学
				部活動ができない	中学校の複式学級	交通の便が悪い
				子どもの数が増える要素がない		

まとめ（論点）

○魅力ある教育環境の整備・充実

- ・児童生徒が、授業や部活動等を通して集団で学びあい高まることができる環境で学ぶことが必要である。
- ・児童生徒が減少する中、10～20年後を見据えた学校の規模適正化を考えることが必要である。
- ・直近の取組として、他校との合同行事・部活動等の交流を充実させることが必要である。
- ・小規模校の職員数が減少する中で、児童生徒の安全を確保することが必要である。

○学力向上

- ・いじめ・不登校対策を充実し、安心して学べる居場所づくりが必要である。
- ・学校と家庭が連携をして、学力向上に取り組むことが必要である。

○学校・家庭・地域等の連携協

- ・コミュニティスクールや地域学校協働活動を推進して、多様なつながりの場・体験の創造することが必要である。
- ・様々な他者と十分にコミュニケーションを図ることが大切である。

○家庭教育支援の充実

- ・保護者が家庭教育の在り方を学ぶ機会を設け、学びを深める必要がある。

テーマ2「新たなつながりの創造」

ありたい姿	社会に出て生き残れる力を育てる	
取り組み	色々な体験をさせる	学力だけではない力をつける
		家庭、地域
課題	家に帰ってからの過ごし方（ゲーム、スマホ）	家庭での会話減

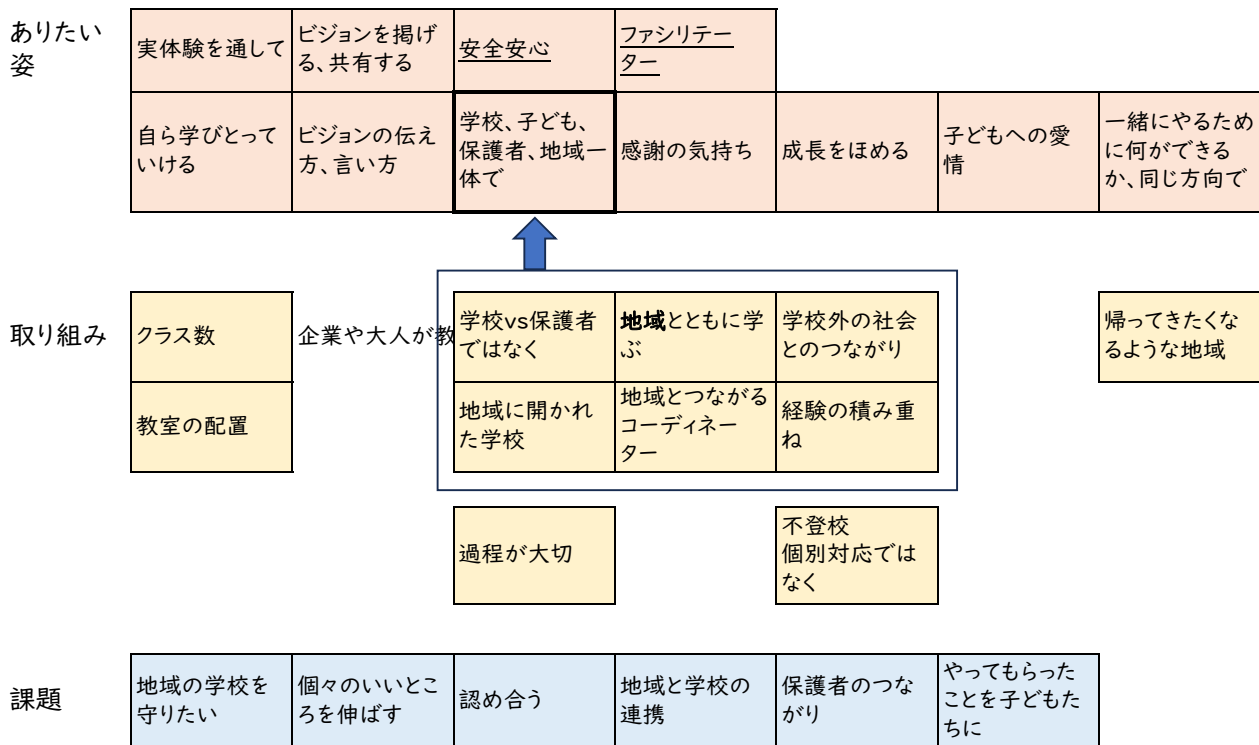
まとめ（論点）

○社会をたくましく生き抜く力

- ・様々な体験活動を充実させる必要がある。

Cグループ

テーマ1「これからの学校教育のあり方」 + テーマ2「新たなつながりの創造」



まとめ（論点）

- 学校・家庭・地域等の連携協働
 - ・学校と保護者が対立する場面が多いが、ビジョンを共有し学校・子ども・保護者・地域が一体となって取り組んでいくことが必要である。
 - ・地域とともに学んでいくためには、地域と繋がるコーディネーターが必要である。
 - ・子どもたち自身の体験や地域との関わりを通じて、自ら帰ってきたくなるような地域にしていきたい。
- 多様な居場所や学びの場の創出
 - ・不登校対策としては、地域の人と一緒に活動するなど学校外の社会と繋がっていくことも必要である。
- 確かな学力の育成
 - ・一方的に教えるというのではなく、子どもたちが実体験を通じて自ら学び取っていけることが大切である。

Dグループ

テーマI「これからの学校教育のあり方」

ありたい姿	個々にスポットライトが当たる	個々の幸せをつかめるように	先生の指導、意欲があがる	新たな楽しい学びの場
-------	----------------	---------------	--------------	------------

取り組み	学校通信を地域へも配布、もしくは発信 (SNS)	あえて環境を整えない	自由	失敗をさせたい	CSの活用 (学校で完結しない、抱えない)	家庭支援
		子どもの意見を聞ける場を作る	地域一体となるイベント		学習、生活支援 ⇒環境 (安全、楽しく)	
					地域への誇り	子ども (大人も?) の居場所
						子どもとかかわる幸せ

課題	体を動かすことが苦手な子がいる	生きていく力 ~人との関わり~	個性の表現の場づくり	子どもの送迎サポート	地域と学校 (先生)	部活動 (少人数)	学力向上だけではない
----	-----------------	--------------------	------------	------------	------------	-----------	------------

まとめ (論点)

- 情報発信
 - ・学校の様子が、地域には伝わってこない。
- 多様な居場所や学びの場の創出
 - ・子どもの居場所づくりが大人 (高齢者) の居場所づくりになるのではないか。
- 体験活動の充実
 - ・あえて環境を整えたりしないで、失敗をさせたい。準備をしすぎない。
 - ・失敗をさせるのは、学校ではできない。
- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
 - ・子どもと関わることで、地域も幸せになる。
 - ・子ども意見が反映された活動。
 - ・先生のやる気が湧くような学校になってほしい。